

農業経営の未来戦略

新規参入者論を中心に

京都大学大学院農学研究科

長谷祐

2013年12月16日

担い手とは何か？

□ 1961年：農業基本法

「農業従事者は、このような農業のにない手として(略)」

- あくまでも農業従事者
- 日本農業の生産力を担う者

□ 1969年：農政審議会答申

「自立経営農家が農業の中核的担い手として着実に発展」

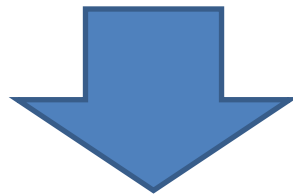
□ 1973年：農業白書

「自立経営と中核的な生産の担い手」

- 兼業化の進展
- 「地域農業の担い手」として期待されるように

「多様な担い手」論

- 1990年代以降の農村の衰退、過疎化
 - 「生産力の担い手」から「農業・農村の担い手」へ
⇒ 「農業の多面的機能」の維持
 - 地域農業、地産地消、直売所、グリーンツーリズム、アグロツーリズム、食育、etcの担い手



- 「多様な担い手」へ
 - 認定農業者、農業生産法人、集落営農、参入法人
⇒ 政策上の担い手
 - **新規就農者**、兼業農家、高齢農家、非農家

□ 「新規参入者」とは

- 「新規就農者のうち、土地や資金等を独自に調達して新たに農業経営を開始した経営の責任者」

農林水産省による定義

- 統計上では、1990年以降に急速な伸びを見せている。

⇒ 新規就農の一つの流れに

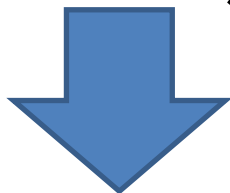
参考) 69名 (1990) → 1,730名 (2010)

新規参入者について

■「新規参入者」とは

「新規就農者のうち、土地や資金等を独自に調達して新たに農業経営を開始した経営の責任者」

農林水産省による定義



統計上では、1990年以降に急速な伸びを見せている。

⇒新規就農の一つの流れに

参考) 69名(1990) → 1,730名(2010)

新規参入支援政策の流れ(国策レベル)

- 1982年
「新規参入」についての記述が初めて「農業白書」に
- 1987年
全国新規就農ガイドセンター設立
- 1995年
青年の就農促進のための資金の貸付け等に関する特別措置法
- 2008年
「田舎で働き隊！」事業
- 2011年
青年新規就農者の経営安定支援
「食と農林業の再生実現会議」基本方針(2011~16年)
⇒青年就農給付金制度へ

- 新規参入者研究の類型

- ① 新規参入の特質に関する研究

- ② 新規参入者の定着プロセスに関する研究

- ③ 参入地域の農業、住民や地域農家との関係に関する研究

- ④ 新規参入者の支援方法に関する研究

①-1 新規参入の特質に関する研究

- 参入障壁に関する研究(稲本[1986], 田畑[1997] etc)

新規参入時にどのような障害があるのか？

- ①農地の確保
- ②農業技術の習得
- ③経営成果を上げるまでの時間と費用
- ④資金調達の問題
- ⑤集落社会への参入と信用基盤の形成
- ⑥住宅の確保

①-2 新規参入の特質に関する研究

・ 新規参入者の特質に関する研究

(岸[1986],江川[2000],秋津[2009])

農業に新規参入する人はどんな人なのか？

- ・プロ型 — 自給型
- ・自作地型 — 借地型
- ・過疎地型 — 都市近郊型
- ・伝統型 — エコロジー型
- ・農協出荷型 — 消費者直結型
- ・経済型 — 哲学型

②定着プロセスに関する研究

新規参入者は経営資源をどのように調達するのか？

新規参入者の経営展開はどのようなものか？

(江川[2000],藤栄・江川[2003],澤田[2003],島[2009])

- 新規参入者へのアンケートによる分析
- 「資金不足」、「所得が少ない」等の問題が重大
- 参入前の知識や技術、経営志向的な動機が経営成長につながる
- 専業農家として自立することが定着のカギ
- こうした問題への地域的な支援体制の必要性

③地域との関係に関する研究

地域住民や農家との関係構築の重要性

(内山[1999],岡部[2001],澤田[2001],柳村[2006])

- 不動産の取得、地域への浸透努力が重要
- 参入者と地域をつなぐ仲介者の存在
- 過去の新規参入受け入れ経験による地域の温度差
- 地縁血縁の有無、選択作目による困難性の差異

- 以上の課題を乗り越えたとしても、不安定な短期雇用を繰り返すケースも存在している。

④-1 支援方策に関する研究

- 支援主体に注目した研究(江川[2005],原[2002])

市町村や農協など、支援をする主体ごとに支援に特徴があるのか？

- 公的支援活用型
- 民間支援活用型
- 独自型

④-2 支援方策に関する研究

- 支援メニューに注目した研究
(澤田[2003],内山[2001],酒井[2005])
- 就農準備段階での研修の課題
- 北海道のリース方式の継承の分析
- 情報収集の重要性に関する研究

新規参入者支援の事例

①福井県若狭町
かみなか農楽舎

②鹿児島県鹿屋市
輝北町農業公社

福井県若狭町

国土地理院承認 平14総旗 第149号



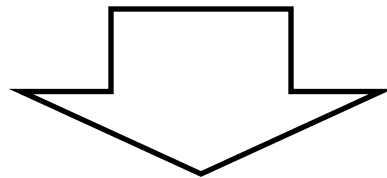
福井県

■ 特徴

- ・中山間農業地域。
- ・稲作農家が多い。
(旧上中町では90%以上が水稲単作農家)

かみなか農楽舎

- ・設立年 2001年10月(事業は2002年4月開始)
- ・事業内容 研修事業、農業生産事業、直販事業、
インターンシップ事業、体験学習事業
- ・契約農地面積 34ha(2009年)



実績

- ・これまでの受け入れ人数は28名(うち、女性5名)
- ・17名が福井県若狭町内に就農(法人社員も含む。)
- ・卒業生が経営する面積は118.4ha(若狭町全体の農地の5%以上、旧上中町地域の水田面積全体の17%(2009年))

かみなか農楽舎



かみなか農楽舎

のうがくしゃ かみなか農楽舎とは？



農業で地域を元気にする、次世代リーダーを育成！

かみなか農楽舎は平成14年に福井県若狭町役場、地元農家、民間企業が共同出資して、福井県若狭町に誕生した農業生産法人です。設立当初から、都市からの若者の就農・定住を促進し地域集落を活性化する『就農・定住事業』に着手、この就農・定住事業を軸に、農業生産（米・野菜）や加工だけでなく、農業体験事業など、多角的な農業経営に取り組んでいます。

若狭町と法人は、農業を通して広い視野から挑戦してみたいと考えておられる方をお待ちしています。



かみなか農楽舎、11年間の実績

- 農業インターンシップの受入数、全国8位
- 体験事業の参加者は4年連続で2,250人以上をキープ(10年延べ数1万7000人以上)
- 遠隔地団体客の体験事業のリピーター率40%
- 行政からのバックアップとサポートで、設立10年で19名の地元就農定住を実現と全国に例のない成果を上げることができました。

●第10回 グリーンツーリズム大賞

●平成24年度 福井県農林漁業賞【農林漁業活性化部門】

これに恥じることのないよう、さらに精進していきますので、どうぞご期待ください。

かみなか農楽舎では、多角的な農業経営を発展させ、地域をさらに元気にすることを目指します。

農楽舎からのお知らせ

2013/12/14
年末年始 休業のお知らせ
2013/11/28
そば打ち体験 12月15日(日)
2013/10/30
2013 かみなか農楽舎 収穫祭

特集

お米と野菜を産地直送!
農楽舎オンラインショップ



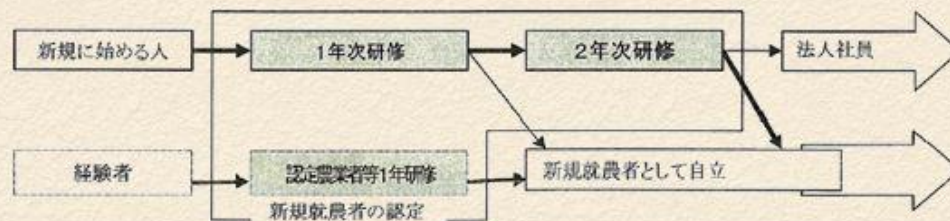
かみなか農楽舎

研修事業の概要

若狭町、地元集落、認定農業者等による研修体制を組み、栽培を学びながら自主販売、体験事業、加工という多角的な農業研修を行います。また、歴史を知り、集落行事に参加し、地域づくりの諸活動に参加します。

2つの研修コースがあり、1つは自立して新規就農者となる研修コース。もう1つは法人社員として農業生産事業や就農定住研修事業等を担う法人社員コースです。

また、農業経験者や研修経験者は、認定農業者等の元で研修し自立していくことも可能です(要相談)。



■新規就農コース

1年次研修: 農業の基本をマスターし、若狭町での生活に慣れる期間です。具体的には、水稻栽培、大麦、露地野菜、施設野菜の栽培等 座学(町の歴史や施策、地元農業者との交流等) 農業体験等。2年次研修: 水稻と転作の課題を与え、現場責任者として栽培から販売までを担い就農準備を行う期間です。この間に様々な新規就農の手続きを行い、次年度は新規就農者として自立します。

■経験者の就農コース

認定農業者等の元での研修です。翌年には新規就農者として自立します。

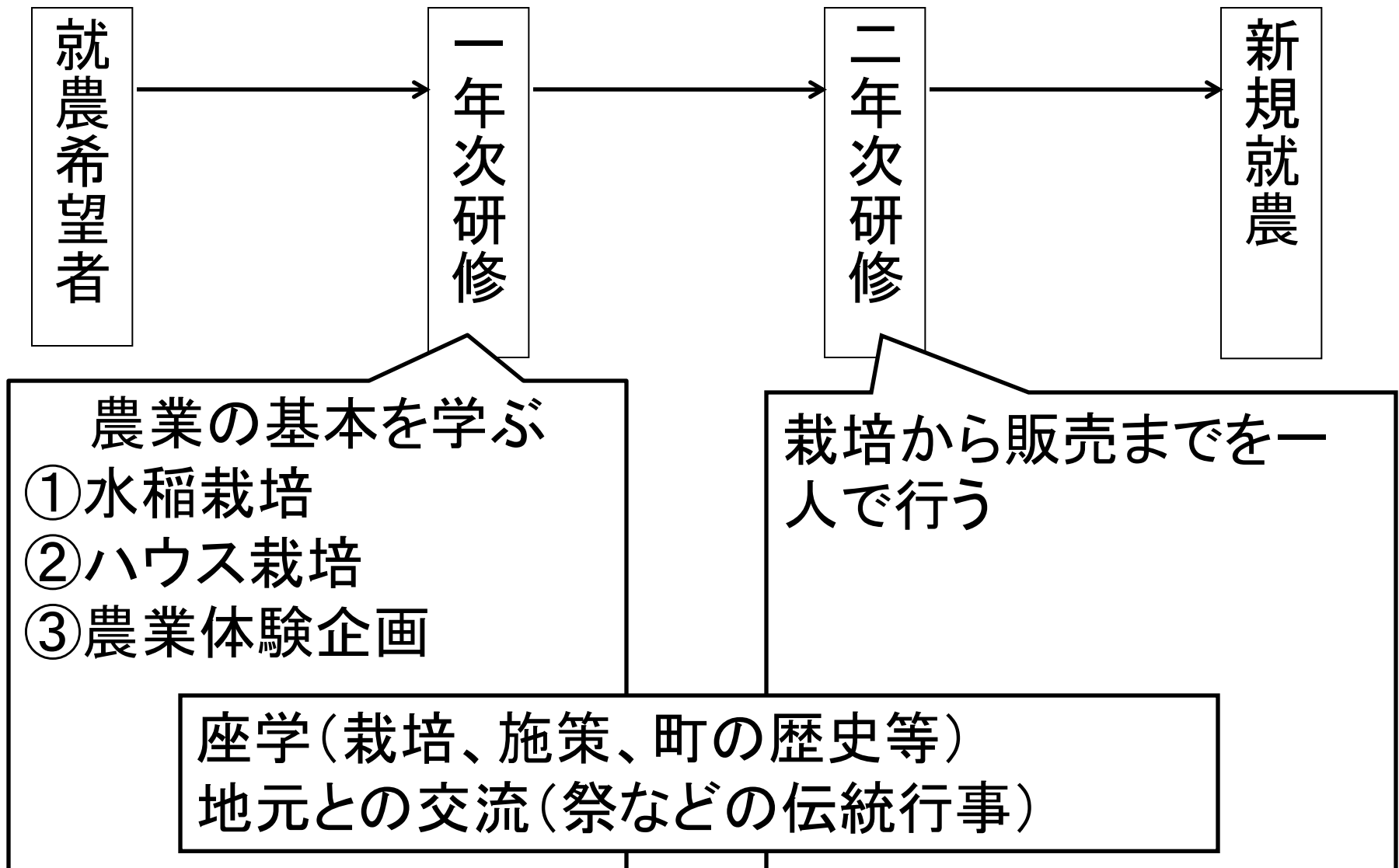
■法人社員

2年の研修後、法人社員として農業生産事業、研修事業、体験事業等を担います。

研修生は研修受講費の負担はなく、法人から生活費に相当する支援を行います。

新規就農に際しては、農地、農業機械、住宅等について、法人と若狭町が最大限の支援いたします。

かみなか農楽舎



かみなか農楽舎

- 世話人・親方とは
地元住民と新規参入者の間の仲介役となる地域農家
⇒この制度によって、独立創業する「創業型」と、地域農家と共に経営を行う「協業型」の新規参入形態が存在する。
- 目的
参入障壁の①「農地の確保」、③「農業技術の習得」、
⑤「集落への参入」を軽減すること。
- 世話人：独立創業を希望する研修生の後見人
研修生が就農する際に2～3haの農地を準備する。その他にも、農業機械の貸し出し、農業技術や地域での生活についての助言を行う。
- 世話人制度を利用した(独立創業した)農業経営の特徴
自分のやりたい農業を目指す「生活志向型」の新規参入者。
就農地は、担い手不足が顕著な中山間地が多い。

かみなか農楽舎

親方

⇒新規参入者と経営を共にし、将来的に経営を継承させることが計画されている。

既に10ha程度の大規模経営を行っており、後継者のいない農家が親方になることが多い。

- 親方制度を利用した(協業型の)農業経営の特徴
農業を事業と捉えている「事業志向型」の新規参入者。
若狭町内でも比較的平場となっている地域での参入できる。
平場であるために兼業農家が多く、集落内に住居を見つけれない新規参入者も多い。

⇒世話人・親方制度によって、かみなか農楽舎では「生活志向型」、「事業志向型」の研修生を受け入れる事が可能となっている。

かみなか農楽舎

事業名		事業内容	区分	助成額	
新規就農者 経営支援事業	研修奨励金	就農初期の経営安定のための奨励金を交付	非農家出身	1年目	15万円/月
				2年目	10万円/月
				3年目	5万円/月
			兼業農家出身	1年目	15万円/月
	専業農家出身	1年目	5万円/月		
	小農具等整備 奨励金	経営開始時に必要な小農具等を整備するための奨励金を交付	非農家出身	100万円以内×1/2	
新規就農者住宅確保支援事業		地域外からの新規就農者の住宅費に対する助成	県外や地域外からの新規就農者	家賃（8万円以内）×1/2 ×3ヶ年	

かみなか農楽舎

	農地の確保	住居の確保	農業技術の習得	資金調達の問題	集落への参入と信用基盤の形成
かみなか農楽舎		研修期間中は、研修棟で生活する	2年間、水稻を中心として技術研修が行われる。		研修期間中から集落の祭事などの行事に参加する。
世話人・親方	2～3haの農地を幹旋 (世話人)		就農後、新規参入者に営農に関して助言を行う。	農業機械を貸し出すことで、新規参入者の初期投資を軽減する	地域と新規参入者の架け橋となる
	自身の農地を提供 (親方)			地権者と地代について交渉を行う (世話人)	
その他支援事業		新規就農者の町営アパート		合計360万円の所得補助	
		家賃の半額補助		小農具購入の半額補助	

■かみなか農楽舎での支援の特徴

□①進路の複線化

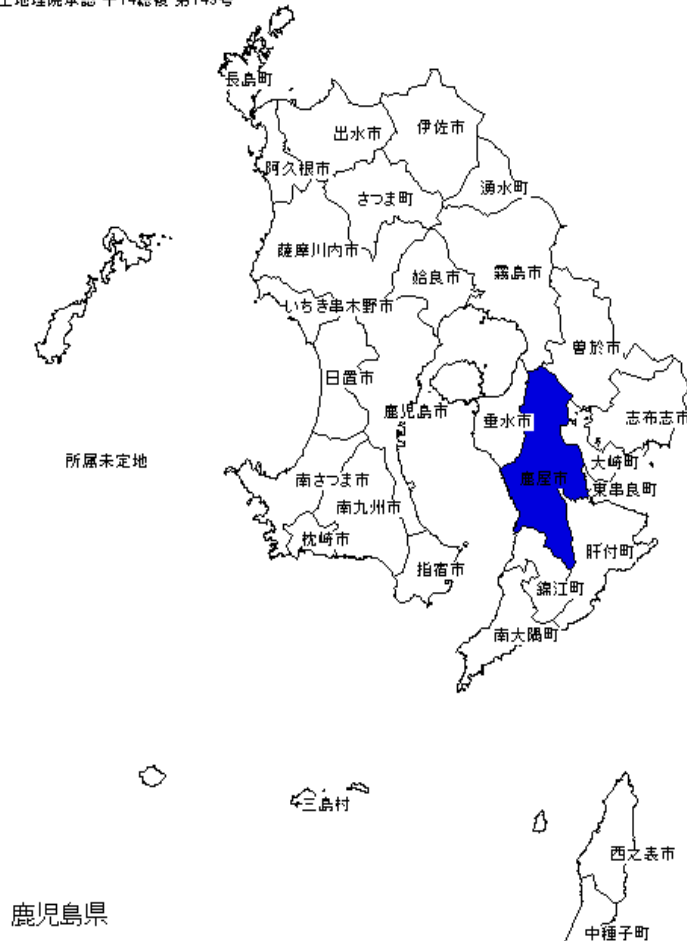
□②「水稻+ α 」型経営モデルの推進

□③地域密着型の研修制度

□④かみなか農楽舎の存在・卒業生による支援

輝北町農業公社

国土地理院承認 平14総複 第149号

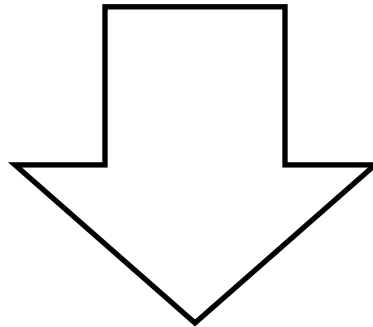


■ 特徴

- 養鶏が盛ん
- 農業においては花きの生産額が最大
- 農家人口はここ10年で40%減少

輝北町農業公社

- ・設立年 1998年9月(事業は2000年7月開始)
- ・事業内容 研修事業 農地保有合理化事業
- ・研修ハウス 15棟



実績

- ・2008年までの受け入れ人数は22名
- ・21名が鹿児島県輝北町に就農
- ・卒業生が経営する面積は約5.0ha

■輝北町農業公社での支援の特徴

- 作目の限定(花、スプレー菊)
- 降灰事業の活用による参入障壁の軽減
- 農協との連携での売り先確保
- 経営モデルの画一化

新規就農支援のこれまで

- 稲本, 田畑らによる参入障壁の指摘

⇒生活基盤、資金問題, 有形の経営資源、無形の経営資源、地域の信用基盤

- 行政, 地域等による支援の役割分担

行政:生活基盤、資金問題, 有形の経営資源

地域, 農家:無形の経営資源、地域の信用基盤

⇒「いかに参入障壁を軽減させるか?」、「いかに経営を安定化させるか?」について注力してきた。

新規参入支援の課題とこれから①

- 定着率の低さ

倪[2007]の指摘では、「就農3年以上、農業所得で生計が成り立っている新規参入者のこと」を「定着」として、その定着率は28.3%と試算。

⇒参入障壁の軽減だけでは捉えられない、新規参入者の負担の存在？

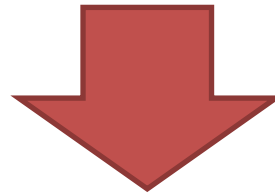
⇒これまでの新規参入者論では、新規参入者の主体性は想定されていなかった。新規参入者は「やる気はあるが『持たざる者』」、「あくまでも支援対象」という仮定。

新規参入支援の課題とこれから②

- 参入後の経営展開の多様性とネットワーク
⇒新規参入者独自のネットワークを利用した
経営展開過程
- 創造性と安定性のトレードオフ
⇒かみなか農楽舎と輝北町農業公社
- 先に就農した新規参入者の役割
⇒「技術習得」や「地域との架け橋」だけではない

新規参入支援の課題とこれから③

- 新規参入者の主体性と支援の射程
 - 新規参入「論」ではなく、新規参入「者」に焦点を当てた研究
- ⇒ 新規参入者の心理的な負担や就農意欲の維持に関わる研究の必要性



「キャリア論」や「モチベーション論」を組み合わせた新しい「農業キャリア論」の構築

キーワード) キャリア、就農者の意欲、メンタリング、ネットワーク、創造性と安定性

- Career：馬車の通った道
- キャリアデザイン
 - 目的逆算型キャリアデザイン
 - 偶然活用型キャリアデザイン
 - 節目重視型キャリアデザイン
- キャリアコンピテンシー
 - 知識・経験 役割意識、自己イメージ、性格的特性、基本的動機